

# 新専門医制度 内科領域 モデルプログラム

当プログラムの特筆点を分かりやすく抜粋しました。詳細・お問い合わせはページ下部にある QR コードからご覧いただけます。

## 希望に応じてフレキシブルに対応出来る内科プログラム

豊富な症例数と  
科の垣根を超えた  
充実した指導環境

当科には内科標準コース、Subspecialty 重点コースの2コースがあります。内科標準コースでは連携施設での研修を何年目に行うのかをプログラムの任意に設定出来ます。一方のSubspecialty 重点コースでは Subspecialty に比重を置く期間をフレキシブルに対応できます。また 2017 年に腎臓病センターが設立され腎臓移植も診られる内科医の育成も日々行われています。



JMECC講習会での様子

### 内科標準コース

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
専攻医 1年目	内科 1	内科 2	内科 3	内科 4	内科 5	内科 6	1年目にJMECCを受講(プログラム要)						【目標】 症患者 20以上 症例数 60以上
専攻医 2年目	内科 7	内科 8	内科 9	内科 10	内科 11	内科 12	病歴提出準備						【目標】 症患者 45以上 症例数 120以上
専攻医 3年目	連携施設												【修了要件】 症患者 56以上症 例数 160以上病 歴要約 29
	初診+再診外来を週に1回担当(プログラム要件)												
その他要件	安全管理セミナー・感染セミナーの年2回の受講・CPCの受講												

※ モデルプログラムとして紹介するこのコースでは連携施設での研修を3年目としているが、連携施設での研修を何年目に行うのかはプログラムの任意とする。(最終的に修了要件を満たすことが重要です)

◎ 特別地域連携プログラム枠 日本専門医機構が定めた医師少数地域(9県)の連携施設で研修を1年間行うプログラムも可能

### 先輩医師・現役専攻医の声

当科は腎臓外科と一緒に移植を中心とした治療を行っており、やる気次第では外科の手技にも積極的に参加できるのが魅力です。また妊娠・出産などにおいて女性が働きやすいような環境作りに積極的なのでとてもありがたいです。



腎臓内科  
助教 小島 亜希 先生

循環器内科では、若手の医師にもいろいろな手技を上級医の指導のもと、たくさん経験させてくれます。大学病院ではありますが、市中病院のような症例も経験できます。学年が近い先生たちと一緒に切磋琢磨しながら学ぶことができる環境が整っています。

循環器内科  
専攻医 桑原明日香 先生



プログラム統括責任者  
腎臓内科・血液浄化療法室  
科長  
副院長 尾田 高志

腎臓病センター  
ホームページ

[hachioji-kidney.jp](http://hachioji-kidney.jp)



※ 上記QRコードは内科専門医プログラム責任科のホームページに飛びますが、内科領域内の各診療科の選択は可能です。



◀ 見学をご希望の方はこちらから

メール：[h-senmon@tokyo-med.ac.jp](mailto:h-senmon@tokyo-med.ac.jp)

電話：042-665-5611 (代表)

内科専門研修プログラムをダウンロード  
できます！

[h-internal-medicine.com](http://h-internal-medicine.com)

